

別紙 発表者(令和6年度チャレンジャー)

【敬称略、五十音順】

【農業・狩猟業における「生産・捕獲」から「食べる」までの一連の過程を通じた「ガストロミーツーリズム」の提供】

伊東 英祐

【事業の概要】

インバウンド向けに、小田原の生産(農業・狩猟業)現場の見学ツアーと、食材の加工体験、加工した食材を活用してシェフが調理した料理を提供する、ガストロミーツーリズム※を実施する。

※ガストロミーツーリズム:その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しみ、食文化に触れることを目的としたツーリズム。

【取り組むきっかけ】

小田原の農村地域で猟師として生活する中で、農家や猟師の日々の生活と、地域で生産される新鮮な食材を、新たな体験や美食を求める小田原市外の人に届けることで、新たな価値を生み出したいと考えたこと。

【「バイオ炭」の製造と炭素貯留によるカーボンクレジットの創出事業】

伊藤 淳

【事業の概要】

街路樹の剪定枝から製造したバイオ炭を土壌改良材として利用し、街路樹の倒木被害等の防止を目指す街路樹育成支援を実施するとともに、バイオ炭への炭素貯留による気候変動対策に向けた都市緑化ソリューションを提供する。

【取り組むきっかけ】

アフリカでバイオ炭事業に取り組む中で、同事業に係る欧州の先進事例に触れ、日本国内の街路樹管理における課題解決に活用できることを確信し、途上国での事業経験を活かして地元神奈川から革新的な環境ビジネスモデルを発信していきたいと考えたこと。

【開成町の資源を活用した甘酒商品の製造・販売による地域活性化と健康増進事業】

小林 真理子

【事業の概要】

開成町のおいしい水と米麴を活用して、健康増進につながる甘酒商品の製造・販売を行う。

【取り組むきっかけ】

以前、勤務していた開成町瀬戸屋敷のカフェで甘酒を使ったメニューを提供していた際、健康のために甘酒を持ち帰りたいという声が多かったことから、水や米麴など地域の資源を利用した、健康につながる甘酒を神奈川県、開成町の魅力と一緒に発信したいと思ったこと。

<p>【地域の中小企業の悩みを解決するちょうどいい総合広告代理店的マーケティングパートナー事業】 坂下 達郎</p>
<p>【事業の概要】 都市部の大企業向けに提供されることの多い総合的な広告代理店サービスを、小田原を中心とした県西地域の中小企業に提供し、地域や企業の実情に合わせて、駅内看板広告から SNS 戦略まで包括的なマーケティング支援を行う。</p> <p>【取り組むきっかけ】 地域の中小企業と関わる中で、多くの企業がクリエイティブやマーケティングを断片的、散発的にしか実施できていないと感じ、その企業のパートナーとなって、地域の人材を活用しながらマーケティング支援を行うことで、地域を盛り上げたいと考えたこと。</p>
<p>【日本のすべてのまちの“旅する理由”を歴史からひも解く、体験型観光事業】 桜井 晴也</p>
<p>【事業の概要】 日本のすべての地域が持つ“地域ならではの個性と魅力”を、“地域の歴史”に紐づけ、地域の歴史上の人物や伝承されてきた物語など地域の歴史や文化、風土に触れる体験型観光プログラムを提供する。</p> <p>【取り組むきっかけ】 観光地ではない地域であっても、歴史に焦点を当てることでその地域ならではの観光資源を発掘し、地域で育まれた歴史や文化、風土を発信することで、観光客を呼び込みたいと考えたこと。また、この取組により、特定の観光地へのオーバーツーリズムを解消したいと考えたこと。</p>
<p>【「かくれんぼ」のスポーツ産業・観光産業展開事業】 高山 勝</p>
<p>【事業の概要】 「かくれんぼ」を活用し、地域活性化に繋がるイベントの企画・運営を行うとともに、法人向けに社内コミュニケーションの促進や社員の運動不足解消を目的とした社内運動会・社員旅行プログラム等を提供する。</p> <p>【取り組むきっかけ】 かくれんぼ世界選手権に出場した際、強豪と言われるヨーロッパ各国の大人が競技を楽しんでおり、遊ぶ気持ちを忘れない心の豊かさを感じたこと。また、イベント運営会社で勤務する中で、子供に限らず、大人にとっても、多くの遊ぶ機会が必要だと感じたこと。</p>

<p>【地域の持続性に取り組むラーニングコミュニティをベースとしたJ-クレジット創出支援事業】 長谷川 諒</p>
<p>【事業の概要】 “ローカル×サステナビリティ”をテーマに、農林水産分野に関する地域実践型のラーニングプログラムを提供するとともに、第一次産業従事者等が参加するコミュニティを構築する。また、地域における持続可能な農林水産業を目指し、コミュニティメンバーに対し、農林水産分野のJ-クレジット※創出を支援する。 ※J-クレジット制度:温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジットとして国が認証する制度</p> <p>【取り組むきっかけ】 深刻化する地球温暖化等の環境問題に危機感を持ち、J-クレジットの創出や営農型太陽光発電の普及により解決したいと考えたこと。また、それを実現するためには多くの人と危機感や問題意識を共有し、協力して取り組んでいく必要があると感じたこと。</p>
<p>【児童・生徒のニーズに応え、教員の負担軽減に向けた探求学習のコーディネートサービス】 森川 もえ</p>
<p>【事業の概要】 「探究学習」において、教員の負担軽減を図りながら、児童・生徒が学びたいことや関心があるテーマに沿った内容とするため、児童・生徒と教員双方へのヒアリングに基づく授業の構築と、その分野専門の外部講師の派遣を行う、授業づくりのコーディネートサービスを提供する。</p> <p>【取り組むきっかけ】 課題発見・解決力育成の必要性が高まり、近年学校において「探究学習」の導入が本格化した中で、教員の負担増や、実施内容と児童・生徒の関心があるテーマとの不一致などの課題を解決したいと考えたこと。</p>
<p>【地域の文化芸術の活性化に向けた芸術作品の共有・分散所有プラットフォームサービス】 吉田 理穂</p>
<p>【事業の概要】 NFT(デジタルデータの改ざんを防ぐための非代替性トークン)とブロックチェーン技術(優れた改ざん耐性を持つデータ管理技術)を活用し、デジタル技術により、1つの芸術作品を多くの人が共有することを可能にするプラットフォームを構築し、地域の文化芸術の活性化及び若手アーティストの支援につながるサービスを提供する。</p> <p>【取り組むきっかけ】 作品購入の敷居が高いアート市場で、「何から始めればいいのかわからない」という潜在的な需要も多いため、参入障壁を下げ、気軽に芸術作品を所有できるサービスを提供しようと考えたこと。</p>